

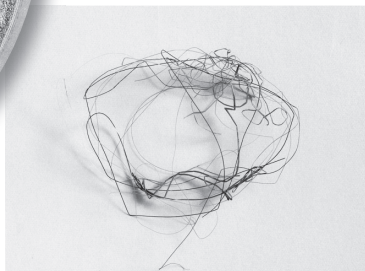
「伊能景利収集の 富士山火山灰」

噴煙の記憶

かげとし



▲佐原村に降った火山灰



▲佐原村に降った火山毛

富士山の大噴火

現在、世界遺産の登録に沸く富士山は、火山としても知られます。今のところ活発な火山活動は展開していません

が、今から約300年前の宝永4年（1707）、富士山の火山史上で最大規模の噴火が起こりました。宝永の大噴火と呼ばれるこの噴火では、関東一円に大量の火山灰が降り積もり、江戸の街では、昼間でも明かりをとまさなければいけないほどであったといわれます。

珍しい伝世の火山灰

伊能忠敬の祖父にあたる伊能景利が収集したコレクションの中に、この宝永の大噴火の際に降った火山灰などが残されています。こうした火山

灰は、発掘調査などにより地中から出ることはあっても、その当時に降ったそのものが現在まで伝えられる事例は、非常に珍しいものです。

奇石コレクター伊能景利

景利は奇石のコレクターでもあり、各地の珍しい石を収集しています。景利が集めた宝永大噴火の噴出物は、この地域に実際に降ったものを景利が自ら採集したり、他地域で降ったものを人からもらったりして、収集されました。景利の宝永大噴火関係の収集コレクションには、火山灰の他に、火山毛と呼ばれるガラス質の繊維状のもの（植物性の可能性もある）や噴石などが存在しています。

問い合わせ

伊能忠敬記念館 ☎(54)1118